

B-12 IFI試験布によるドライクリーニングの洗淨実験

(株)白洋舎洗濯研 足立ふみ子 西出伸子

目的 ランドリー汚染布としては日本油化学協会法の他数種の人工・天然汚染布が普及しているが、ドライクリーニング用試験布の情報は極めて少ない。我々は米国のIFIのテストタオルを入手し、伊過装置を有するドライクリーニングの系で洗淨した場合について検討した。

方法 IFIのテストタオルにはクリーニング後の洗淨効率、水溶性シミの除去率、再汚染率測定用の布片がとりつけてある。再汚染テスト用としては綿100%とT/C 65/35%の混紡布を用いている。水溶性汚れの代表的なものとして食塩および食用色素を、また不溶性汚れとしてはラグ汚れを使用している。ラグ汚れはIFIが不溶性汚れの除去の測定のために開発したもので、綿布に反射率50~60%に一定の粒度の絨たんの汚れを乾式汚染させたものである。洗淨試験は洗たく物容量3.6kg、溶剤循環数(ワッシャー内容剤の1時間当りの交換数)約50回のパークロールエチレン用ドライクリーニング装置で、数種の洗剤を添加し、調湿して実験を行なった。

結果 不溶性汚れによる洗淨効率は大体50~80%を示しており、油化学協会法のランドリー用汚染布を使用した場合に比べるとはるかに高い値を示している。また再汚染率は2~8%程度であった。演者は洗剤の種類による洗淨性、再汚染性について検討した結果を述べる。